

横浜市内のアカアシクワガタ発見例

高桑正敏・古南幸弘

Masatoshi TAKAKUWA & Yukihiko KOMINAMI: Occurrence of a Stag Beetle, *Nipponodorcus rubrofemoratus*, at Yokohama

アカアシクワガタ *Nipponodorcus rubrofemoratus* (SNELLEN VAN VOLLENHOVEN) は、北海道、本州、四国、九州、対馬、朝鮮、中国などに分布するクワガタムシ科の甲虫で、県内ではこれまで丹沢や箱根、津久井地方で得られており、山地性クワガタの1種と考えられてきた(高桑, 1981; 1990)。ところが1990年、横浜市内の2カ所から本種が相次いで発見され、また以前にも市内での発見例があったという確実な情報も寄せられた。これらが自然分布によるものか、それとも何らかの偶発的なものによるかは明らかではないが、いずれにしろここに記録しておくことで諸賢の参考に供したい。

本文に先立ち、貴重な情報を提供していただき、発表を許された神奈川県昆虫談話会の土屋貴氏と横浜市内神奈川中学校1年の平本英一郎君、横浜自然観察の森におけるクワガタムシ相のご教示を得た神奈川県昆虫談話会の久保浩一・渡 弘両氏にお礼申し上げる。

1990年の採集記録

① 2 匹, 港北区仲手原, 20-31. VII. 1990, 平本英一郎採集

平本君によれば、夕方、クヌギと思われる木の根元の樹液に、多数のカナブンとともに来ていた2個体(大あごの長い型と短い型)を採集したという。これらはしばらく飼育していたが、双方とも体を破損して死亡してしまった。破損の度合の大きかった前者の型の個体は捨ててしまい、それほどではなかった後者は標本にしたが、その後福島県産の本種の完全個体入手できたので、これも処分してしまった(しかし、幸いなことに体の一部は残存しており、筆者らの一人高桑はこれが確かにアカアシクワガタであることを確認した。その破片は高桑が所有している)。

同地では、平本君によってミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、ヒラタクワガタ、コクワガタも採集されている。

リクワガタ、ヒラタクワガタ、コクワガタも採集されている。

② 1 匹, 栄区上郷町横浜自然観察の森構内, 12. X. 1990, 古南採集

自然観察センター裏庭の昆虫観察用の給餌台の上に置いたナシの果実の上に止まっていたところを、遠足に来ていた小学生が発見した。そこは、周囲をスダジイ、オオシマザクラ、コナラ等からなる林に囲まれた、半日陰の場所である。

自然観察センターでは来訪者の観察のために、この庭の窓際に高さ約20cmの小さな台を設置し、8月からバナナ、キウイフルーツ、モモ、ナシなどの果実を置いて昆虫を呼び寄せている。発見時は、餌のナシはかなり柔らかく発酵して甘いアルコール臭を放っており、アカアシクワガタはこの頂部付近にじっと止まって果汁をなめていた。捕獲時には前肢の付け根の部分に、数匹のダニがたかっていた。この個体は12月15日現在、自然観察センターで飼育中であり、餌としてリンゴとナシの切れ端を与えたが、リンゴはほとんど食べず、ナシの発酵し始めた果汁を好んでなめた。

発見の前後には、同じ餌にコクワガタやヨツボシケンキスイ等が来ているのも見られたが、果実の下に潜り込んでいて、アカアシクワガタのように表面に出てきて採餌することはなかった。実は、上記の個体を捕獲する数日前から、同じ餌台に中型のクワガタ1頭が毎日、昼間採餌に来ているのが目撃されていた。コクワガタ等他のクワガタ類は白昼表面に出て採餌していないことを考えると、これはおそらく上記のアカアシクワガタであったと思われる。

久保・渡両氏によれば、横浜自然観察の森におけるクワガタムシ科甲虫としては、これまでミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、ヒラタクワガタ、コクワガタが採集されているとのことである。

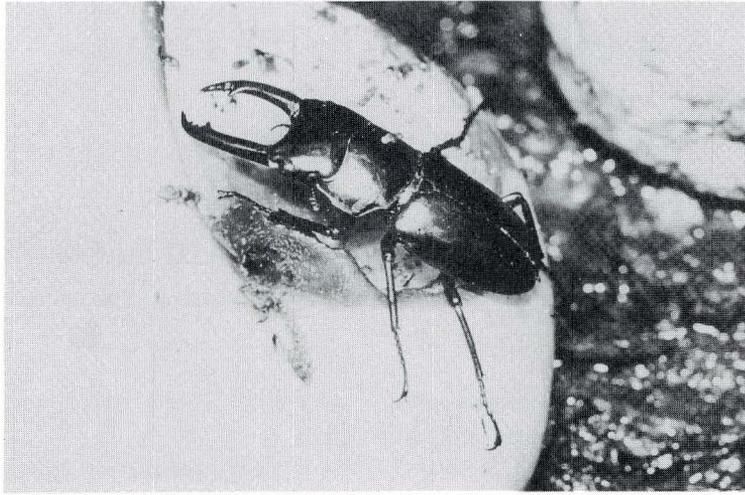


図1. 栄区横浜自然観察の森で発見されたアカアシクワガタ

過去の聞き取り

クワガタムシ科をはじめ横浜市内の甲虫に詳しい土屋貴氏は、緑区において確実にアカアシクワガタを採集されたことがあるという。すなわち、つつじが丘において1973年8月中旬頃の朝、モモの根元をかき分けていたところ本種の雌3個体を発見した。また同年の同じ頃のやはり早朝、梅が丘においてクリを早朝叩いたら雄1個体が落ちてきたという。土屋氏がまだ小さい頃のことなので、残念ながら標本は残されていないが、記憶は鮮明に残っているとのことである。

自然分布の可能性

前述したように、アカアシクワガタは県内では丹沢や箱根、津久井に生息が知られていた。いわゆる山地性クワガタの1種と考えられているわけだが、純山地性のルリクワガタ属3種やツヤハダクワガタ、ヒメオオクワガタなどと異なってその分布圏はかなり広く、低いところでは標高200—300m程度の場所でも採集されている。したがって、垂直分布的には低地で発見されてもおかしくない。

しかし、横浜という立地はやはり問題がある。横浜自然観察の森における場合は、不特定多数の人が訪れる施設であるため、発見個体が故意に放されたものではないという保証はない。また、港北区や緑区におけ

る場合も含め、飼育下にあった個体が逃げ出したものという可能性も考えられないではないからである。さらに、県西部と横浜との間、たとえば多摩丘陵での記録も知られていないようなので、常識的な分布範囲から多少とも遠く外れている。したがってどうしても、人為的なことに基づく偶産の結果であることを念頭に置かざるを得ない。

ただ一方では、神奈川県低地部のクワガタムシ科甲虫の分布は意外なほど明らかにされていない（高桑，1990）。さらに、多少とも山地性であるスジクワガタも横浜や川崎に記録があることでもあり、現段階でアカアシクワガタの自然分布もしくはその定着の可能性をまったく否定してしまうことは、時期尚早であると思われる。今後の調査に期待したい。

引用文献

- 高桑正敏，1981. 神奈川県のクワガタムシ. 神奈川県昆虫調査報告書，pp. 385-387. 神奈川県教育委員会.
- 高桑正敏，1990. 神奈川県に分布しているクワガタ. 甲虫の魅力—クワガタとハナムグリの世界を探る—，pp. 32-38. 神奈川県立博物館.
- （高桑正敏：神奈川県立博物館，古南幸弘：（財）日本野鳥の会・横浜自然観察の森）